

体験を通した環境教育活動の実践

— 学校版環境 ISO 活動 —

宇都宮市立西原小学校	鈴木 剛
宇都宮工業高校	正会員 ○相原 良孝
宇都宮工業高校	正会員 桑川 高德

1. はじめに

最近では新聞、ラジオ、インターネットなどさまざまなメディアを通じて環境問題が取り上げられており、それらを見たり、聞いたり、感じたりしながら毎日の生活を児童は送っている。本校では平成 13 年度より準備を進め宇都宮市が推進している学校版環境 ISO の認証を取得した。この学校版環境 ISO は学校全体として環境問題に取り組み、市の監査によりある程度以上の評価項目がクリアできれば、市から認定されるものである。この研究報告では、これまでに実践してきた、学校教育活動全体の中での環境教育の実践について報告し、さらに課題の発見と対応について検討することとする。

2. 本校の環境 ISO について

本校の環境教育への取り組みは、学校版環境 ISO の流れにしたがって進められている。学校版環境 ISO 大きな目的は、リサイクル活動、緑化運動、省エネルギーなどの取り組みを通し児童の環境意識を育てるとともに、総合的・体系的な学習、体験的学習、自発的な取り組みにつなげようとするものである。また、こうした学校における活動について、PTA や自治会などに協力を得ることで、家庭や地域社会と連携した学習体制を整備することを狙いとしている。これらが相互に連携し、地域の環境に関する意識高揚や環境保全活動を推進する契機となり、ひいては地域教育力の復活や地域活性化に寄与することも期待されている。

学校版環境 ISO の取り組みは、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の計画(P - Plan)、行動(D - Do)、点検(C - Check)、見直し(A - Action)を行い、継続的改善を実施することである。実施の反省を踏まえ、次の活動を計画し、実施、そのチェックを行い、さらに次の改善へと結びつけてゆく活動である。こうしたマネジメントの手法は、教育分野ではなじみが薄く、教育課題の設定や地域・児童と発達段階との整合性、これまでの学校の経緯等からすぐには取り込み運用するには課題が大きい。しかしながら、環境教育を考えると、これからの地球を大切にすることは、児童の将来を保证することにもなり、その意義や効果は大きいものがある。

3. 体験活動について

本校では活動を生徒が直接的な体験を通して学ぶことを強く意図している。さまざまな活動は、4 月に作成した計画書により実施されている。学校の環境方針、組織体制や役割を全職員が理解した上で、さらに児童の実態や教科単元にあわせて活動を進めていく。いくつかの例を写真で示す。

環境保全活動として、毎年 9 月の地域開放の日に地域の川である新川の清掃を行っている。5、6 年生が地域の環境団体の方々と協力して行っている。さらに、地域学習として環境と一緒に水質や地域の歴史についても興味関心を高めることも行っている(写真 1)。校内の落ち葉の有効利用を図るため、堆肥場の設置を行った(写真 2)。これまで、2 つの堆肥置き場を作ってきたが、さらに第 3 番目の堆肥置き場を作り、校内の環境学習に役立てている。児童は堆肥場の増設により美化活動に対する意識と意欲が高まり、出来た堆肥の利用として、学校花壇や学校農園の肥料としている。さらに、こうした活動から、ゴミの削減などを学ぶなど知識理解へと発展させることとしている。体験がなければ結びつかない側面である。

本校も省エネモデル校の指定を受け、全校を挙げて活動を展開している。省エネは、電気使用の削減ばかり
キーワード 環境 ISO、環境教育、地域交流、エコロジカルクッキング、省エネ活動

連絡先 〒 320-0862 宇都宮市西原 2-5-42 宇都宮市立西原小学校 TEL 028-634-4401 FAX 028-634-4424



写真 1 新川清掃



写真 2 第3堆肥置き場



写真 3 アルミ缶回収風景



写真 4 牛乳パック回収



写真 5 エコロジカルクッキング



写真 6 環境美化活動

りではなく、日常生活に根ざした身近な問題であり、それだけやるべき多くの課題もあるが、家庭においても保護者と共通した活動が実践できるメリットもある。具体的には、省エネ・リサイクル活動として、年間を通して児童会の呼びかけのもとアルミ缶回収(写真 3)に取り組んだり、給食委員会として学校牛乳パックの回収(写真 4)に取り組んだりリサイクル活動に積極的に取り組んできた。また、校内の節電・節水にも意欲的に取り組み、5 年生の総合的な活動の時間には(株)東京ガスの協力により、「エコロジカルクッキング」に取り組んだ。児童が調理法を工夫し、いかにしたら少ないエネルギーでおいしい料理が出来るかの実践研究を総合的な学習の時間に行った(写真 5)。こうした活動は、宇都宮省エネ研究会で児童が発表することにより成果を挙げることが出来た。また、近隣の宇都宮工業高校とは、環境問題を通して交流している。講師として先生をお招きして環境に関するさまざまな説明や高校生による環境紙芝居の公演を聞き、環境に関する興味や関心を高め、意欲をもって活動できることを図っている(写真 7)。これらの活動は、環境ばかりではなく、異年齢交流活動として身近な高校生と接することができ、小学生にとっても楽しい交流活動である。



写真 7 高校の先生による環境の話

4. まとめ

年間を通して、環境に関する活動のいくつかを示した。これらの活動は、本校での環境 ISO 活動として推進してきた活動である。環境問題改善活動は、そればかりの学習や体験のみにとどまらず、人間関係を築く活動となったり、教科を深める活動となったり、心の育成を図る活動となったりと大変発展性が見込める可能性の高いことに気づかされた。やり方や組み立て方、ねらいなどを精査し、よりより活動へと発展させたい。

マネジメントによる運営は、まだまだ緒に着いたばかりで、今後の有効な活用を図りたい。しかし、基本は、全職員の共通理解が必要不可欠な条件である。